

山行報告

◆たかが全縦 されど六甲縦走記

今山(正)

日 時 平成 17 年 12 月 4 日(日)

参加者 L: 今山 砂川 船津 長谷川 国吉 (姫路山の会) 計 5 名

○須磨浦公園 受付 スタート 06:14 天気 曇り

まだ暗い曇天の中我々 5 名は出発、受付はいつになくすいていた。公園の坂道や階段で早くも息が切れる。高倉台団地付近で雨がポツリ、ポツリ 妙法寺手前でカッパを着る。

こんなに早くからの雨で全員そろって宝塚までいけるだろうかと不安になるが態度に出さず明るく会話をしながらとにかく前へ。ペースメーカーはトレーニング山行の時から一貫して砂川さんに任せる。雨と寒さで休憩も取れず、しかし、むしろ私にはピッタリのペースだ。神鉄ひよどりごえ駅前にて長谷川さん所用のためリタイヤ。

○菊水山 09:55 (チェックポイント)

そろそろ疲れがおそって来る、階段で足が重い、やっと頂上。雨は本降り、紅葉も神戸市外も霞んでいる、チェックの後、サポート隊よりみかん 2 個をもらい、凍える手で食べる。疲れているので特に甘く感じられておいしい。少し休憩しただけで寒くなりサポート隊の皆さんの苦労を思う。鍋蓋山の登りで私が最後尾に回る、パーティの歩行リズムが取れてくる、本来絶好の休憩ポイントの鍋蓋もノンストップで通過する。

○大竜寺 前 11:18 (チェックポイント)

ジャムパンと紅茶をいただく冷えた身体が少し暖くなる。ここで大日岳控訴の署名をして早々に出発、手袋が濡れて使用不可になる、とにかく手が冷たいので首をすくめて手を袖の中へ入れて歩く。下りは仕方なく手を出す危険な歩きだ。市が原でトイレ休憩をして天狗道を一気に登る。学校林道分岐付近より雪道になる。風雨にも身体が慣れて (あきらめ) 暑いよりましかと思えるようになるから不思議なものだ。意外と楽に摩耶山、菊星台に着いた、そこは一面の銀世界だったここまでくれば知ってる顔もちらほら見えるし安心感と気持ちも充実してくる。昼食を取り記念撮影をすいよいよ後半戦へ。



丁字ヶ辻付近までは山道と道路を交互に歩く、六甲山ホテル前付近登り勾配道雪がシャーベット状になって足がすべり歩きにくい又安全のため右側歩行したが対向車の跳ね上げる泥雪を浴びた。ガーデンテラスでトイレ休憩した以外は休みなしこれなら明るいうちに下山できるかもしれない! とぐんぐんペースが上がる。極楽茶屋から一軒茶屋まで足場を考えハイウエーを黙々と歩く。時々視界の中に最高峰が見えてくる。斜面の紅葉と頂上の雪は中々のものだ。

○六甲最高峰（一軒茶屋）

15:38（チェックポイント）

また、強い雨になりテントの中で熱々の野菜スープを頂く。冷えて疲れた身体にしみこむ様だった。いよいよ東六甲縦走路の分岐へ、16時50分ヘッドランプ着装、ここまでくれば新たなエネルギーが沸いてくるのが良く分かる、とにかく足元に気をつけて進む。

しかしみんな危険予知ができているのか誰も転ぶ者はいない。船坂峠で谷よりみぞれが吹き上げてきて顔が痛い。そして最後の最後、岩倉山付近で足の悪い人がいたのか、追い越すわけにも行かず20人位がじゅずつなぎとなる。



○塩尾寺下広場

18:25（ゴール） 実行動時間

12時間11分（休憩含む）

宝塚の夜景を見ながら、快い疲労感と達成感を実感しながら長い、長いつづら折れ林道を下山した。そして、労山の仲間が作ってくれたぜんざいの味は又格別であった。

「一言」

今年も全山縦走ができた。これが実感です。特に嬉しかった事は、トレーニングとしての全縦そして兵庫労山六甲縦走大会に参加するパターンが定着できつつある事と、60歳台後半の砂川、舛賀両氏が今後の高齢者登山の道しるべをしてくれているようで、自分の事の様に感動した。

運営委員会より

平成17年の締めくゝりとなる恒例の納山会は数十年ぶりの寒波による積雪で、予定の後山縦走が出来ず、ベルピー

ル自然公園経由の日名倉山山行に変更されましたが、それもベルピール館が休館のため、周辺の雪道散策のみに終わったことは誠に残念でした。また、翌日のオルゴール館、玩具館見学も中止となり、ご参加頂いた



皆様には物足りない気持ちだったことゝ思います。

納山会のもう一つの目的である親睦会は和やかに親睦をはかることが出来ました。有難うございました。中止になった後山縦走は是非、リベンジしたいと思います。

◆後山・日名倉山山行

日 程 12月17日～18日(日) 1泊2日

参加者 L:貝塚文 他16名

山行記録

1日目	コース	J R宝殿⇒日名倉登山口⇒引き返す ⇒登山口 ⇒温 泉 ⇒こぶしの里					
	時 間	8:20	10:40 (20)	11:45	12:40	14:00 (60)	14:30
2日目	コース	こぶしの里⇒あわくランド⇒平福⇒J R宝殿⇒運動公園～山陽高砂駅					
	時 間	9:45	11:30 (30)	11:50 (20)	14:10		14:35

【感想文】 原田(勝)

早朝の天気予報を気かけながら、バスに乗り込んで車窓から高御位山をながめるが、積雪は見られなかった。実は、自宅前はうっすらと雪景色をしており、歩行に苦労したのだ。

車内ではそれぞれ、山行やら料理などの会話でワイワイとにぎやかであったが、積雪が多くなるにつれて、心配がつのってきたのか、話しは車外の雪に集中しだし、言葉も少なくなってきた。

計画を変更して、日名倉山の登山口に着いたが、30cmは超える積雪にとにかくスパッツ、アイゼンを装着して雪道を確実に進む。時おり雪けむりに悲鳴をあげる者もあったが、後山三山、那岐山の雪景色を振り返って見て勇気づけられ、登山口を探すが見当たらず雪道もせまくなり、下っているの引き返すことになり、正面から登ることにしたが、やはり積雪のため見当たらなかった。

ベルピールでの記念撮影もそこそこにして、志引峠を越えエイガイヤ温泉に冷えた体を温めに車は走る。

後は宴会の話がしきりである。宿泊先のこぶしの里に着いたのは14時30分であり、宴会には少し早いので、散歩することになり、風の強い中を1時間あまり歩く。風が強く寒いせい、路面は凍っていた。コブシは厚いガクでおおわれた花芽をつけ、厳寒対策をしており、ホオノキ、クヌギも枯葉を残し、新芽を守っている。

宿へかえって再び風呂に入るが、冷えきっているせいか、熱く感じた。午後6時からの宴会では今年一年間の反省やら、来年の抱負を語り合い、二次会へと場所はかわる。心うちとけて夜もふけた頃布団にもぐる。

翌朝はやはり雪で、新雪が20cm積もっていた。玄関で記念撮影をして宿を後にしたが、新雪にツルウメモドキだろうか、真っ赤な小さい実がとても印象に残った。

あわくランド、平福道の駅と立寄り、お土産をかったり、昼食を摂ったり、まるで温泉旅行気分であった。

無事J R宝殿駅に到着し、みんなと別れ階段を上がった。

山頂に立つことは出来なかったが、五月頃に訪れてみたいと思う。

企画有難うございました。

